



**Yomeishu** 次のすこやかさへ、一歩一歩



養命酒製造株式会社

# CSRレポート 2016



# 会社概要

## Corporate Profile

社名	養命酒製造株式会社 (YOMEISHU SEIZO CO., LTD.)
所在地	東京都渋谷区南平台町16-25
代表者名	代表取締役社長 塩澤太郎
設立	大正12(1923)年6月20日
資本金	16億5,000万円
事業内容	養命酒、酒類及び医薬品等の製造・販売 飲食店及び売店の経営、不動産の賃貸 自然エネルギー等による発電事業及び電気 の供給・販売等に関する業務
年間売上	127億円(2016年3月期)
従業員数	268名(2016年3月31日現在)

# 編集方針

## Editorial Policy

本報告書は、養命酒製造株式会社が初めて発行するCSRレポートであり、当社と関わりのあるすべてのステークホルダーの皆様に対し、当社の社会的責任とそれに対する各種の取り組み状況をご理解いただくことを目的とし、2015年度の1年間に取り組んだ活動を報告書として取りまとめたものです。ステークホルダーの皆様に対して分かりやすい情報開示に努め、さらなる対話の起点となるツールとしていきたいと考えています。

### ▶ 本報告書に対するお問い合わせ

養命酒製造株式会社 マーケティング部  
〒150-8563 東京都渋谷区南平台町16-25  
TEL:03(3462)8196 FAX:03(3463)9808



#### 報告期間

原則として2015年4月1日～2016年3月31日までの活動を対象としています。ただし、必要に応じて同期間の前後の活動内容も掲載しています。

#### 報告範囲

養命酒製造株式会社の活動

#### 対象読者

商品・サービスをご利用のお客様及び生活者、お得意先企業、株主、取引先(協力会社・仕入先)、従業員、行政、地域社会等、幅広いステークホルダーの皆様を対象としています。

#### 発行日

2017年1月

## 目次 Contents

- 01 会社概要  
編集方針
- 03 トップメッセージ
- 04 特集  
健康は豊かな自然から生まれる  
Eco Factory 養命酒駒ヶ根工場
- 09 人々の健康への願いを叶えるために
- 11 すこやかな暮らしの実現に向けて
- 13 お客様の心からの笑顔のために
- 15 美しい自然環境を未来へ
- 17 いつも地域社会とともに
- 19 社員がいきいきと働ける職場づくり
- 21 皆様から信頼される企業であるために
- 25 商品紹介&会社の歩み



# TOP MESSAGE

トップメッセージ



人々の  
「健やかに、美しく、歳を重ねる」  
という願いを叶える企業で  
あり続けます。

当社の主力商品であり、社名の由来でもある薬用養命酒は、創始者塩澤宗閑翁<sup>そうかんおう</sup>の健康への願いから誕生いたしました。皆様の健康生活に貢献したいという精神は、「生活者の信頼に応え、豊かな健康生活に貢献する」という当社の経営理念に今も連綿と受け継がれ、事業活動の根本を成しております。

「いつまでも健康でいたい」というのは人々の共通の願いです。健康への関心は治療から予防へ、また食については安心・安全はもちろんのこと、環境に配慮した自然志向を求める傾向が年々高まっております。このような状況の中で当社は、創業以来変わらない価値を守りながら、変化する社会環境やお客様のニーズに応えるために、「ポジティブエイジングケアカンパニーとして、健やかに、美しく、歳を重ねることに貢献する」という事業ビジョンを掲げ、お客様視点に立った新規事業の確立やCSR経営に取り組んでおります。

経営理念で謳っている「豊かな健康生活に貢献」とは、すなわち「ポジティブエイジングケア」の実現に他ならず、その実現に貢献することが当社のCSR活動でも特に重要であると考えております。そのため、商品・サービスの提供のみならず、健康を保つための「未病の予防」「健康の増進」といった啓発活動にも力を入れております。この活動によって、個人の生活の質を高めるだけではなく、健康寿命の延伸、社会保障費の軽減といった社会全体の課

題解決にも貢献できると考えております。

また私自身、お客様である生活者と当社との距離を近づけることを第一に、お客様へのおもてなしの気持ちを大切にしてきたつもりです。この想いは商業施設「くらすわ」や駒ヶ根工場内の「養命酒健康の森」にも反映されており、「養命酒健康の森」併設のカフェで、雄大な山並みを眺めながら健康を意識したメニューをお召し上がりいただければ「浩然の気を養う」という言葉そのものの体験をしていただけるでしょう。こうしたおもてなしの心が通じ合う社会づくりも人々の健康生活に欠かせないと考えております。

世界共通の課題である環境保全に関しては、循環型社会の形成に貢献すべく生薬残渣<sup>ざんざ</sup>のリサイクルを進めています。生薬残渣を堆肥化し、再び薬用養命酒の原料となる生薬を自前で作る循環を構築するため、現在様々な試験を行っているところです。

今後も、本報告書でご紹介しているCSR活動を含め、様々な形で私たちの想いを生活者の皆様にお届けし、皆様の健やかな毎日に最も寄り添う企業を目指して取り組んでまいります。

養命酒製造株式会社  
代表取締役社長

塩澤 太郎

# 健康は 豊かな自然から 生まれる

## Eco Factory 養命酒駒ヶ根工場

標高800mの高原に位置する駒ヶ根工場では、敷地面積36万m<sup>2</sup>の7割を森林が占める恵まれた環境の中、環境に負荷をかけない様々な配慮をしながら薬用養命酒をはじめとする商品を製造しています。また、構内の森林は「養命酒健康の森」として整備・保護し、工場を訪れるお客様の憩いの場として活用しています。本特集では、この恵まれた製造環境を保全し、自然環境・地域社会との共生に努める社員4名のインタビューを通じ、駒ヶ根工場が取り組む環境活動と地域貢献についてご紹介します。

Eco Action.001 ..... P5

### 自然環境と共存できる製法を守る

澄んだ空気と清らかな水に恵まれたこの地に感謝し、これからも自然環境の保護に努め、環境負荷の少ない商品づくりを続けます。

Eco Action.002 ..... P6

### 資源循環型工場を目指して

地域社会と連携した生薬残渣リサイクルの取り組みを通じて、自然環境・社会との共生を目指しています。

Eco Action.003 ..... P7

### 工場を心地よい“里山”に

「養命酒健康の森」を訪れることによって人が健康になる。そんな理想を追い求めて、敷地内の里山化を進めています。

Eco Action.004 ..... P8

### 皆様に親しまれる工場であるために

訪れるお客様の心と身体が健康になるような施設を目指し、様々な取り組みを展開しています。

# 自然環境と共存できる 製法を守る



商品づくりを支える中央アルプス空木岳(うつぎだけ)の清流

## 豊かな自然と清らかな水が商品づくりの原点

当社は製造に最適なよりよい水を求め、水質が良く、敷地の上方に人家等がない豊かな自然環境であるこの駒ヶ根に工場を構えました。設立当初から「森林工場」をコンセプトに、工場敷地の7割を占める森を守りながら、地形を生かした自然と調和する工場づくりを行っています。構内は山の傾斜を利用し、上方の建物から工程が進むごとに下方の建物に液体が流れる省エネ設計になっており、一番上が原酒庫、一番下が瓶詰・包装を行う瓶詰棟になっています。電線や配管は全て地下の共同溝に敷設し、自然景観との調和にも配慮しています。

また、皆様に厳しい品質管理の下でのものづくりの様子を見ていただくために、製造ラインを公開しています。ガラス越しに実際の製造現場を見ていただくことで、「真摯なものづくりの姿に安心できる」というお声も頂き、励みになっています。



駒ヶ根工場 製造グループリーダー  
唐澤 昌宏

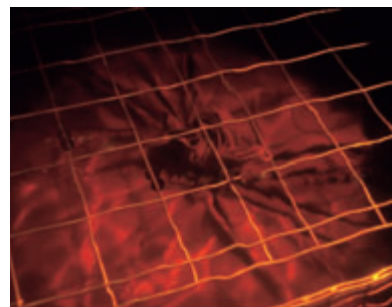
## 環境にやさしい独自の製造方法

薬用養命酒は古くよりこの伊那谷の自然の恵みによって造られた薬酒です。14種類の生薬をあらかじめ配合し、これを同時に原酒に浸漬して成分を浸出する「合醸法」という製法で造ります。生薬を粉碎し、生薬袋に入れ、原酒に漬け込み、加温することなく原酒を数回循環させ、自然そのままの状態が生薬の有効成分を抽出する、薬酒本来の製法です。熱を加える必要がなく、最低限の撹拌ですむため、電気や燃料の使用を抑え、省電力で生薬の有効成分を抽出できる、環境にやさしい製法でもあります。

商品づくりに使用する水は、中央アルプスの花崗岩層に長い時間をかけて磨かれ、体に染み込むようなさらりとした甘みのある口当たりです。極めて硬度の低い極軟水で、生薬の力を活かして造る薬用養命酒に最適の水と言えます。この水を地下150mの深井戸から汲み上げることにより安全性を高め、ポンプから配管、水槽、機器の材質にこだわり、腐食等を防止する細心の注意を払い管理しています。この恵まれた自然環境に感謝し、この先も共存できるよう、環境に負荷をかけない伝統の製法を続けていきたいと思っております。



生薬浸漬抽出工程(調合した14種類の生薬を生薬袋に入れ、原酒となるみりんやアルコールに漬け込み、約2か月間規定の濃度になるまで浸漬と循環を繰り返す。)



# 資源循環型工場を 目指して



工場入口に位置する試験栽培場

## 生薬残渣が独自のおいしさを生み出した 信州十四豚※

当工場は、2015年度実績で約400tの産業廃棄物を排出しており、そのほとんどが生薬の成分抽出後に出る生薬残渣です。2015年度は生薬残渣の一部を飼料用として加工し、また信州十四豚用飼料としても出荷しています。

どのような方法でエサに生薬残渣を混ぜれば、豚に喜んで食べてもらえるか、豚の健康に良い影響を与えるか、柔らかくおいしい肉質になるか、その加減には苦労しました。肉質が良くなる混ぜ具合を見つけるために試験を重ねた結果、肉自体が柔らかくなったというデータが出た時には、本当にうれしかったですね。さらに飼育者の方からは、「豚の病気が少なくなった、糞尿の臭いが減った」などの評価も頂いています。



クリーンな豚舎

※信州十四豚(シンシュウジューシーポーク)  
薬用養命酒の原料であるウコンやケイヒなど14種類の生薬残渣などを配合した飼料を与えてきたオリジナルブランド豚。

## 将来は、自社内での完全な資源循環を 目指したい

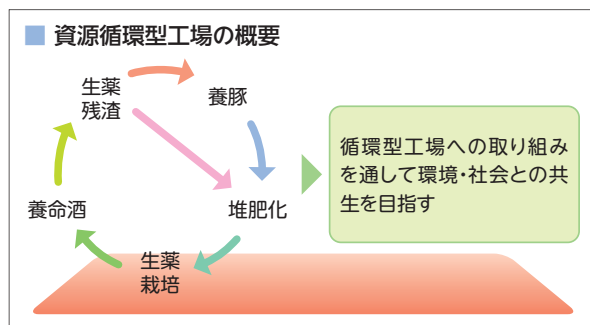
薬用養命酒は自然からの恵みを頂いて造っています。自然を汚すのは簡単ですが、元に戻すのは大変です。少しでも環境問題の解決に貢献できればという思いから、生薬残渣の堆肥化にも取り組んでいます。また、完全な資源循環型工場を目指し、その堆肥を使った生薬の栽培にも取り組み始めています。

良質な生薬が効率的に栽培できるよう構内で試験栽培を進める一方、地元の農家さんとの協同栽培も始めました。地元産の安心・安全な原料確保とともに、遊休農地の有効利用、地域農業への貢献につなげていきたいと考えています。

また、長野県が進めている企業と自治体が協力して行う健全な森林づくりの仕組みである「森林の里親促進事業」にも協力しています。当社と駒ヶ根市は、2015年3月に協定を締結し、森林の間伐作業とともに薬用養命酒の生薬原料となるクロモジやイカリソウの植栽などを行ってきました。このような地域と一体となった自然保護、天然資源の保全にも積極的に努めています。



駒ヶ根工場 総務グループチームリーダー  
片桐 雅博



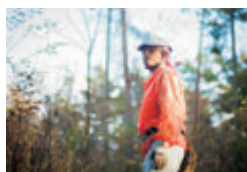
# 工場を 心地よい“里山”に



手入れをして光がさすようになった森\*

## 美しい里山の森をつくる

2005年に、駒ヶ根工場は敷地内の自然環境を整備し、「養命酒健康の森」として一般開放しました。私は、森づくりの技術者として、構内の木々や山野草の管理、日々の草刈りや樹木の剪定など、森林・樹木の管理を専門に担当し、人が癒される美しい森づくりに取り組んでいます。



現場から森の将来像を読み取るのが樹木医の仕事\*

当工場の目指す美しい森とは、春は山桜や生き活きとした芽吹き、夏は緑の葉で濃い日陰が生まれ、秋には美しく紅葉し、冬は落葉した森がやがて白い雪景色に変わる、そんな四季の変化を感じられる森です。人にとって安心かつ安全で、五感を刺激する気持ちの良い森を提供したいと思っています。

## 森の多様性を活かして、心地よい里山に

一般開放した当初は、散策路を歩く人があまりいませんでした。なぜなら、それまでは自然を大切にす工場と



駒ヶ根工場 総務グループ(樹木医)  
伊藤 伸二

して「木を伐ってはいけない」という方針があったためです。木が無造作に混み合い、重なり合う枝で太陽光が遮られた森は、昼も暗いという状況でした。

自然の中で植物は常に競争しています。ありのままでは、競争力の強い種ばかりが茂った多様性のない森になってしまいます。本来「里山」とは、人が手入れをし、利用することで森の健全さが保たれてきました。手入れには明確な目的が必要なのです。現在は理想とする美しい里山に少しずつ近づいてきていると実感しています。



## 豊かになった森が認められる喜び

「養命酒健康の森」は、2010年に「生物多様性につながる企業のみどり100選※」認定事業場に選ばれました。当社の場合、適切な森づくりによって樹木の種類が増えたことと、自前で森を整備する技術を育み、自らの手で少しずつつくり上げたことが評価されたのではないでしょう



みどり100選認定証

か。今後も人の手が入ること、森はこんなにも良くなるという事を伝えていきたいと思っています。

※生物多様性につながる企業のみどり100選  
財団法人都市緑化基金が主催、国土交通省や環境省が後援しており、企業がそれぞれの視点で行っている生物多様保全に貢献する活動を評価し、中でも特に優良な100の事例を公表する制度。

\*写真/庄司直人





# 皆様に親しまれる 工場であるために



木々に囲まれたカフェ・ヒーリングテラス

## 工場見学がきっかけで 養命酒ファンになるお客様も

駒ヶ根工場は、1972年工場設立以来たくさんのお客様をお迎えし、今日では年間10万人以上の皆様にお越しいただいています。

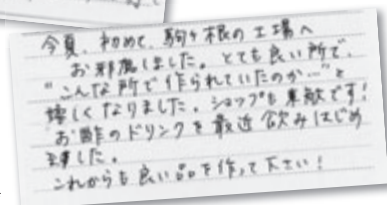
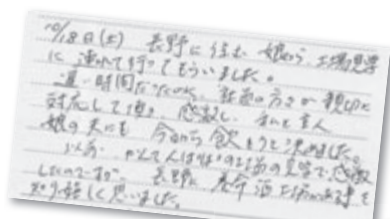
2005年以降、工場見学だけでなく飲食や知的発見も楽しめるという付加価値をお届けするために、記念館、ショップ、カフェなどを相次いでオープンしました。記念館には、養命酒400年の歴史を語る資料や生薬を展示しており、健康知識を学ぶことができます。カフェでは、昔ながらの里山の原風景の中でつろぎのひと時を過ごしながら、当社ならではの健康を意識したオリジナルメニューもお楽しみいただけます。また、構内で発掘された「養命酒駒ヶ根工場内遺跡」は、地元の保育園や小学校の社会学習にも活用いただいています。

「工場見学で製造環境の素晴らしさを実感して薬用養命酒を飲み始めた」というお客様の声も数多く頂いており、大変うれしく思っています。

## ここでしかできない体験と心に残る思い出を

「養命酒健康の森」では、里山散策イベントや生薬を活用した体験型イベント等を年25回以上開催しています。最近ではリピーターのお客様も増えており、お越しただいたお客様には唯一無二の貴重な体験とかけがえのない時間をお持ち帰りいただきたく思っています。当工場が、色々な所で駒ヶ根市の観光ルートのひとつとして案内されており、たくさんのお客様をお迎えすることが、地元駒ヶ根市の活性化につながればと思っています。

これからも皆様に親しまれる工場であるために、お客様一人ひとりとのコミュニケーションを大切に、親切丁寧なおもてなしに努めていきます。



工場に訪れたお客様の声



マーケティング部 リテールグループ  
チームリーダー (駒ヶ根工場 養命酒健康の森担当)  
依田 保



養命酒駒ヶ根工場内遺跡(発掘された土器や石器、住居跡を復元展示している)



戦前に養命酒が製造されていた酒蔵を移築した記念館



# 人々の健康への願いを叶えるために

高い「品質」、そして「安心・安全」。社会に求められる有用な商品やサービスの提供に努めています。



## ポジティブエイジングケアカンパニーとして

当社は「生活者の信頼に応え、豊かな健康生活に貢献する」という経営理念の下、「ポジティブエイジングケアカンパニーとして、健やかに、美しく、歳を重ねることに貢献する」という事業ビジョンを掲げ、主力商品である薬用養命酒の原材料を長期・安定的に調達確保できる体制づくりに努める一方、新規事業の展開にも積極的に取り組んでいます。この事業ビジョンの実現を目指し、より広く皆様の健康生活に貢献できるよう、商品やサービスの開発・提供に全社一丸となって取り組んでいます。



## 薬用養命酒

医薬品である薬用養命酒は、医薬品に関する製造管理・品質管理基準であるGMP(Good Manufacturing Practice)に則って原材料を購入しています。これからもお客様に安心で安全な商品をお届けするために、長期安定的に原材料が確保できる体制構築に取り組んでいきます。

### ● 原材料の安定的確保

原料生薬を長期・安定的に確保し、品質を保持するため、輸入生薬については産地の情報収集、現地確認、サンプルの入手と分析などを行い計画的な調達を図っています。現在、日本では漢方製剤・生薬製剤などの原料となる生薬の約8割を輸入に依存しています。当社は、薬用養命酒の継続製造を確かなものとするために輸入生薬のカントリーリスクの軽減を図り、国内で栽培可能な原料生薬については、自治体などと連携して国内での試験栽培を開始しています。

生薬の品質維持(防虫、防カビ対策)においては、庫内温度15℃以下、湿度60%以下で品質管理を行ったうえで、製造開始時に改めて使用前検査を行っています。

### ● 国内栽培の拠点「生薬センター」

薬用養命酒に使用する生薬の国内栽培の試みはかなり早く、1978年には、岩手県の田野畑村に「生薬センター」を開設しています。「生薬センター」では、生薬の集荷・加工を行っているほか、薬用植物の栽培管理を業務としています。

また、「生薬センター」の開設は、田野畑村の特産資源である薬草を活用した医薬品関係の企業を誘致したいという意向に賛同し、実現しました。地域経済の活性

化・地域おこしへの協力という社会貢献にもつながっています。



田野畑村の試験栽培(ポウフウ)

### ● 山口市とクロモジの試験栽培を実施

原料生薬の安定的な確保を目的に、山口市とクロモジの試験栽培を行っています。クロモジは、薬用養命酒に使われる烏樟うしょうの基原植物です。この試験栽培は、耕作放棄地の活用による地域の活性化につながる取り組みとしても関心が高まっています。



山口市での試験栽培(クロモジ)

## 新規事業の展開

新規事業分野では、健康や美容へ関心の高いお客様に向けて、付加価値を追求した新商品の開発やサービスの提供に取り組んでいます。エイジングケア分野では抗糖化の研究開発、酒類分野においては本物・健康・おいしさをテーマにした酒類の開発、「くらすわ」では信州発の健康的で上質なブランドの展開を進めており、また新たな販売チャネルの拡大にも取り組んでいます。

### ● ポジティブエイジングケアに向けた研究、商品開発

当社がエイジングケアに取り組む理由、それは「老化」が人々の健康に大きな影響を及ぼすものであるからに他なりません。老化の大きな要因として「高血糖」や「糖化」といった生活習慣に起因する体の状態が注目されています。当社は「見た目年齢」だけではなく、より根本的な「健康寿命」を延ばすためのエイジングケアにつながる研究、商品開発を進めています。

#### 研究機関との連携

同志社大学との産学協働

プロジェクトとして「糖化ストレス研究センター」を立ち上げ、老化を促進する大きな危険因子である「糖化ストレス」に関する基礎的な研究を行うとともに、有用な抗糖化素材の研究を行っています。さらに、内閣府主導のSIP 次世代農林水産業創造技術「次世代機能性農林水産物・食品の開発」プロジェクトで出口戦略を担当する企業として参画するなど、産官学協働でエイジングケアの研究を進めています。



### ● 薬酒造りのノウハウを活かした酒類開発

酒類分野では素材にこだわり、薬酒造りの技術を応用した健康感のあるお酒の開発を進めています。お客様の視点にたち、お客様のニーズに応えるべく、ハーブを配合した健康のお酒や、フルーツやワインとあわせた楽しくおいしく飲める美容のお酒など生薬やハーブに関する長年の研究成果を活かした商品を展開しています。

### ● 食を通してすこやかな暮らしに貢献する「くらすわ」

諏訪湖の湖畔にある「くらすわ」は、信州の地産品を中心に、身体に良いもの、生活に潤いを提供するものを積極的に商品化し、皆様にお届けしている施設です。ショップやレストランでは、添加物の使用を抑えた安心・安全な食材、薬用養命酒の生薬残渣などを配合した飼料で育てた信州十四豚などのオリジナル商品やメニューを提供しています。またイベントホールは、地域の皆様に広く開放し、学生や地元アーティストの発表の場として活用いただいています。



### ● 商品を全国の皆様へお届けする通信販売

当社の商品および「くらすわ」のオリジナル商品などは、通信販売サイト「Yomeishu オンラインショップ」でもお求めいただけます。健康生活に役立つ様々な商品を全国の皆様に直接お届けしています。

Yomeishu オンラインショップ

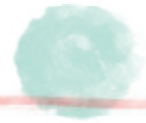


# すこやかな暮らしの実現に向けて

生活者の皆様の健康生活につながる情報の提供や、啓発活動に取り組んでいます。



## 健康のきっかけづくり



近年、健康への意識は治療から予防に移りつつあり、セルフメディケーションは、自分自身の問題だけでなく、社会保障費の抑制など社会的課題の解決にもつながるカギとなっています。当社は、「いつまでも健康でいたい、健康なまま美しく歳を重ねたい」という人々の共通の願いを実現するため、セミナーやWebサイトを通して、冷えや疲れなど日々よくある不調の予防・対策に取り組み、自身の体調に向き合うきっかけづくりや、健康への意識づけにつながる啓発活動を行っています。

### 「未病」予防に向けた健康生活の提案

ライフスタイルや生活環境の変化により、“病気とまではいえないが健康を保てず、病気に向かいつつある状態”、東洋医学でいう「未病」にあたる人が増えています。当社では、この状況を社会的な課題と捉え、自治体や地域コミュニティ、企業、カルチャー教室、学校などと協力して、「未病」の予防に取り組んでいます。

2015年度は、東京・大阪・神奈川などで計19回の健康セミナーを開催し、およそ1,500の方にご参加いただきました。東洋医学の知見や、薬膳や薬酒を活用した不調への対処法など、日々の暮らしに役立ち、無理なく実践できる健康生活の提案を行いました。セミナーでは、自身の健康を意識するきっかけづくりとして、血流観察装置

やサーモグラフィを使用した測定体験や、薬膳レシピの試食、薬酒の試飲、薬草や生薬に実際に触れる機会などを設けています。

#### ■ 2015年度実施 健康セミナー内訳

取り組み先		回数
自治体	長野県	3
	大阪府大阪市福島区	1
地域コミュニティ	東京都目黒区民センター	1
企業	A社	1
	B社	1
	C社	1
	D社	2
カルチャー教室	E社	4
	F社	5

### TOPICS

#### しあわせ信州健康セミナー 養命酒すこやか塾

日本一の健康長寿を前進させ、健やかで幸せに暮らせる「しあわせ健康県」づくりを進める長野県との取り組みとして、2016年1～3月に長野県のアンテナショップ「銀座NAGANO」において、「養命酒すこやか塾」を開催しました。今後も協力して、「未病」予防啓発の取り組みを継続する予定です。

「足から体を整える  
フットコンディショ  
ニング」の体験

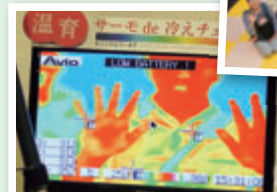


「食べ合わせで  
冷えとり薬膳ご飯」  
の様子

#### 温育チャレンジ

今や「冷え」は女性だけの問題でなく、男性にも、子どもにも「冷え」が増えています(2015年当社調べ)。そのような「冷え」という社会課題の解決のために、“温めて育む”という観点から、衣・食・住の事業に携わる複数企業と協力して、「温育チャレンジ」というプロジェクトに取り組んでいます。「温育チャレンジ」では、母子で参加できるヨガ教室やセミナーを通じて、「冷え」予防に家族で取り組むことの啓発を行っています。

「子どもの心と体を育む  
温め学」の様子



サーモグラフィを使用  
した測定体験

## ● メールマガジン「元気通信」の発信

健康にちなんだ様々なテーマを月替わりで特集し、レシピや雑学など皆様の健康生活に役立つ耳より情報をお届けしています。知識だけでなく、健やかな暮らしのアイデアやライフスタイルを提案しています。



Webサイトにも「元気通信」のコンテンツを掲載しています  
[▶ www.yomeishu.co.jp/genkigenki/](http://www.yomeishu.co.jp/genkigenki/)

## ● Webサイトやミニブック配布を通じた健康知識の情報発信

日常よくある不調(未病)の原因と予防・対策について、情報発信を行っています。睡眠や冷え、疲れ、胃腸の不調など、体の不調に対する当社の知見や未病予防につながる健康法をまとめたミニブックもテーマごとに作成し、ご希望の方に無料で配布しています。また各ミニブックの内容は、Webサイトにも掲載しています。



健康知識・情報ページ  
[▶ www.yomeishu.co.jp/health/](http://www.yomeishu.co.jp/health/)

### 2015年度に追加したコンテンツ

- Webサイト・ミニブック
  - 「冷えは病気のサイン」
  - 「意外と知らない胃腸の不調」
  - 「睡眠が変われば暮らしが変わる」
  - 「疲れに気づいていますか」
- ミニブック
  - 「ツボ押し豆ブック」
  - 「いつもの食材で薬膳レシピ」



「未病」予防啓発ページ  
[▶ www.yomeishu.co.jp/health/mibyou\\_prevention/](http://www.yomeishu.co.jp/health/mibyou_prevention/)



健康ミニブック資料請求ページ  
[▶ www.yomeishu.co.jp/request/](http://www.yomeishu.co.jp/request/)

## ● 薬草・生薬文化の継承、普及を目指した自治体との連携

薬草について、広く生活者の皆様にご存知いただくために、当社と同じく、薬草・生薬文化について関心をもつ自治体と連携し、「見る」「触れる」「食べる」などの体験を通して、薬草を身近に感じるきっかけづくりを行っています。2017年度以降は、江戸時代より薬草と深く関わってきた歴史をもつ茨城県水戸市との連携事業を計画しています。連携事業においては、将来的な薬草の産業化を目指して、薬草文化の普及、地域の賑わいづくり、地域の皆様の健康意識の醸成などの活動に取り組んでいきます。



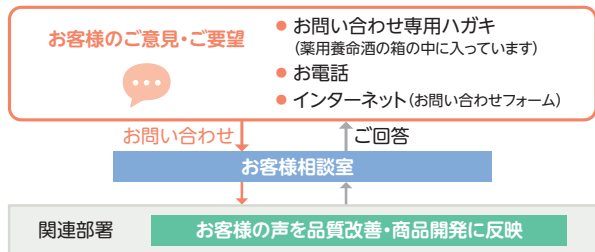
# お客様の心からの笑顔のために

よりご満足頂ける商品やサービスに活かすために、お客様との対話を通じた信頼関係づくりに努めています。



## お客様相談室を通じたお客様対応

お客様満足の向上を第一に、お客様一人ひとりとの双方向のコミュニケーションを大切にしています。1995年にお客様相談室を設立、お客様の声一つひとつに真摯かつ丁寧にお応えするとともに、お寄せいただいた声を新商品の開発や、商品・サービスの改善などに反映できるよう取り組んでいます。

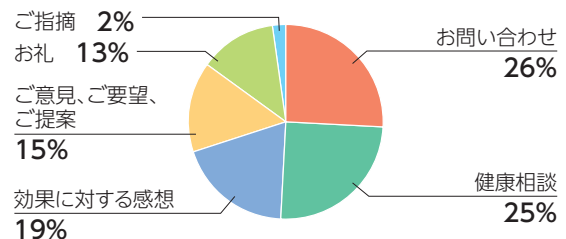


### お問い合わせ専用ハガキ

主力商品の薬用養命酒にお問い合わせ専用ハガキを同梱し、お客様からのお問い合わせやご相談・ご意見・ご指摘などを積極的に伺っています。お客様相談室では、お客様からお寄せいただいたハガキ全てに目を通し、一つひとつのお問い合わせやご相談に対してお返事を差し上げています。当社ではこうしたお客様との双方向のコミュニケーションを大切に考え、1952年より、64年間にわたり実践しています。

### 専用ハガキによるお問い合わせ・ご相談・ご意見やご指摘の内容

(2015年度実績/43,115件)



### お客様のご意見を活かした商品の改善活動

お客様からお寄せいただいたご意見・ご指摘は、関連する部門に伝達し、課題や改善方法を協議、検討しています。お客様の声から学び、“お客様目線”で頂いた声の反映に努めています。

#### 実際の改善事例

##### 1 Before

ラベルをはずして処分したいが、はがれにくい

ラベルをつけるところから工夫し、ラベルをはがしやすく改善しました。ラベル用の糊は、有機溶剤を含まない水溶性の接着剤を使用しています。水につけるとはがれにくくなりますので、そのまま瓶からはがしてください。

##### After

商品ラベルの貼付方法を変更し、はがしやすくなりました



##### 2 Before

飲み進めるうちに、瓶の口がベタついて固まり、開けにくくなる

エキス分が瓶の口に固着し、開けにくくなっていました。そこで瓶口の「ねじ」の部分に工夫をして、飲み進めてもエキスが固着しづらく、開けやすい瓶口に改善しました。

##### After

瓶口の形状を工夫し、開けやすくなりました



##### 3 Before

パッケージや添付文書の文字が読みづらい

薬用養命酒のパッケージや添付文書は、正しく飲んでいただくために細かな情報を記載しています。大切な情報を皆様へ正しくお伝えするために、「ユニバーサルデザインフォント」を採用して、より読みやすく改善しました。

※ユニバーサルデザインフォント 視認性が高い・読みやすいをコンセプトにデザインされた文字を指します。

##### After

添付文書やパッケージの文字を、読みやすいフォントに変更しました



## 「養命酒だより」を通じたお客様とのコミュニケーション

薬用養命酒をお買い求めいただき、同梱ハガキにてご希望いただいた方全員に無料の会報誌「養命酒だより」を年4回お届けしています。誌面では日々の健康管理にお役立ていただける健康情報や薬膳レシピなどを紹介、会報誌を送付する封筒には折り紙として再利用できる工夫を入れるなど、読者様が健康で楽しい毎日を過ごせるよう制作しています。また、読者様との双方向のコミュニケーションを目的に、「養命酒だより」に毎号投稿ハガキを同封し、お寄せいただいたたくさんのおハガキやお便り、読者様のインタビューなどを「養命酒かわら版」に掲載し、ご紹介しています。



読者様よりお寄せいただいた投稿ハガキ

### 養命酒だより会員様向け健康セミナー

「養命酒だより」の読者様を抽選でご招待する健康セミナーを全国で開催しています。2015年度は広島、東京、大阪で実施しました。

2015.11.4 大阪

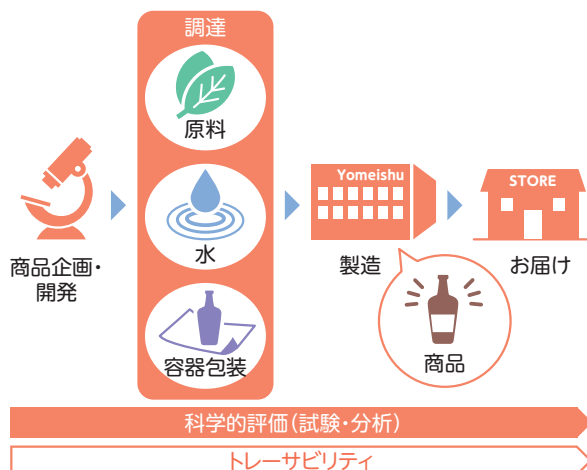
大阪エリアにお住いの「養命酒だより」の読者様を抽選でご招待し、中医学博士の楊さちこ先生による「今日からできる“温め術”実践編」を開催しました。



## 商品の品質と安全に対する責任

薬用養命酒は、医薬品医療機器等法で定められた許可要件である製造販売後安全管理(GVP)と品質保証(GQP)、製造管理及び品質管理(GMP)に則って、確かな品質管理を行っています。工場における品質部門と製造部門が連携し、品質管理と製造管理の両面からよりよい商品を工場から送り出せるよう日々努めています。

### ■ 薬用養命酒の品質管理システム



# 美しい自然環境を未来へ

自然との調和を目指し、省エネルギー、再資源化、廃棄物削減など環境負荷の低減に取り組んでいます。

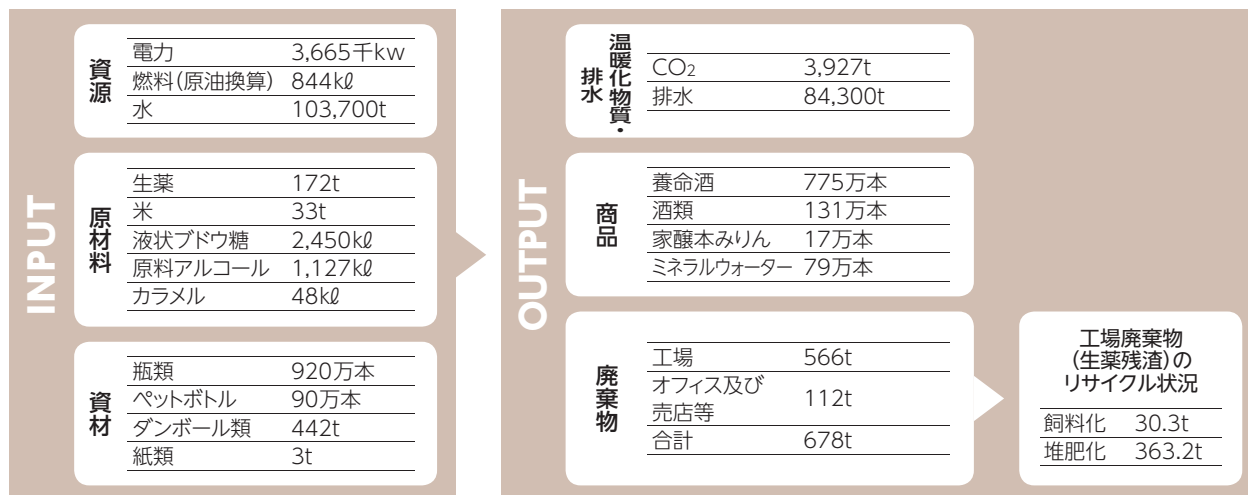


## 駒ヶ根工場 環境方針

駒ヶ根工場は、薬用養命酒等の生産において、緑と水に恵まれた伊那谷の自然環境との調和を考慮した環境の保全活動を行います。

- 1.地球環境の保全と維持のため、環境に係わる法律、協定を遵守し、汚染の未然防止を図るなど、生産活動に配慮します。
- 2.生産活動が環境に与える影響を的確にとらえ、環境目的、目標を明確にし、環境管理システムの維持的改善を推進します。
- 3.資源の有効利用と廃棄物の適正処理を推進し、環境に与える負荷を低減します。
- 4.地域社会との共生に努めるとともに、自然環境との調和に配慮した企業活動に努めます。
- 5.工場の全従業員に対し、環境についての教育、情報の周知を行い、環境方針の理解と環境保全の意識高揚を図ります。
- 6.この環境方針は、社外に公表します。

### 2015年度の環境パフォーマンス



## 地球温暖化防止への取り組み

当社は、地球温暖化防止に取り組むため、主な排出源である駒ヶ根工場で排熱エネルギー活用など工場全体の省エネに取り組んでいるほか、クールビズ・ウォームビズなどオフィスにおける省エネも進めています。

### ● 駒ヶ根工場のコージェネレーションシステム

駒ヶ根工場では、2005年度よりコージェネレーションシステムを導入しています。年間平均で約980<sup>メガワットアワー</sup>MWhに上る電力を自家発電し、工場内の恒常的な電力源として使用しています。これにより、電力会社から供給されている電気のピーク時電力を導入前の1,050<sup>キロワット</sup>kWから、導入後は約3分の1の280kW~300kWに押さえることができました。



コージェネレーションシステムの外観

また、発電の際に発生する約400℃の高温排気ガスの熱を各商品の製造工程で利用する蒸気の熱源として利用しているほか、発電機の冷却水の熱をボイラーや仕上げ水を熱する際の熱源として活用しています。廃熱の再利用で削減したエネルギー量は、重油換算で年間45~48kℓに相当します。

※コージェネレーション 「熱」と「電力」を同時生産する仕組みのこと。主に「熱」を生み出す燃焼機関は、電力を生み出せる可能性を持っており、「電気」を生み出すための燃焼機関は、同時に熱を放出しているため、これを互いに再利用することで、限られたエネルギー資源を最大限に活用する仕組み。



## ● 鶴ヶ島太陽光発電所による自然エネルギーの活用

埼玉県鶴ヶ島市の工場跡地に約10,000枚のソーラーパネルを設置し、環境への負荷低減、電力供給の対策、地域の環境教育などの社会貢献を目的とした、太陽光発電事業に取り組んでいます。太陽光発電による2015年度の発電量は、約3,136千kWh<sup>\*1</sup>となりました。これにより、年間1,673t<sup>\*2</sup>のCO<sub>2</sub>を削減することができました。

災害時には、地域の皆様が利用できるよう、蓄電池システム、電気自動車との相互電力供給などの設備を整えています。

※1・※2 一般社団法人太陽光発電協会「表示に関する業界自主ルール」に基づいて算出

### TOPICS

#### 太陽光発電所併設の「eコラボ(エコラボ)つるがしま」が2015年度のグッドデザイン賞(公共用の建築・施設部門)を受賞

太陽光発電所には、地元の東洋大学建築学科ソーシャルデザインスタジオとのコラボレーションで設立した環境教育施設「eコラボつるがしま」を併設し、蓄電池システム、電気自動車との相互電力供給システムなどが見学できるようになっています。また、井戸水を活用した災害時対応の仕組みも設置されています。2015年度のグッドデザイン賞(公共用の建築・施設部門)を受賞しました。



Photo Takumi Ota

## ● 物流のモーダルシフト化によるCO<sub>2</sub>削減

物流における環境負荷低減のため、薬用養命酒等の商品出荷に関し、より環境負荷の低い輸送方法への切り替え(モーダルシフト)を推進しています。500km以上の遠距離輸送を中心に、トラックからコンテナ(鉄道)輸送に切り替えを進めた結果、輸送重量と輸送距離から算出した2015年度の「モーダルシフト化率」は、56.3%となっています。

## ● 廃棄物削減の取り組み

当社で発生する産業廃棄物のほとんどは、薬用養命酒等の原料である生薬のエキス抽出後に出る「生薬残渣」です。廃棄物削減の取り組みとして、この生薬残渣を家畜の飼料や生薬の試験栽培の肥料にするリサイクル活動を推進しており、2015年度は生薬残渣の100%を堆肥化もしくは飼料化して無駄なく活用しました。また、会議資料のペーパーレス化などオフィスにおけるコピー紙の使用量削減にも取り組んでいます。

### ■ 生薬残渣の使用先 (kg)

使用先	数量
A社(堆肥化)	221,618
B社(飼料化)	16,400
C社(飼料化)	3,300
D社(飼料化)	10,600
E社(堆肥化)	133,200
F社(堆肥化)	8,400

## ● 長野県が進める「森林の里親促進事業」に協力

当社は、森林整備に意欲を持った地域と社会貢献に意欲のある企業・団体等が連携して森林づくりを行う「森林の里親促進事業」の趣旨に賛同し、2015年3月に駒ヶ根市との間で「森林の里親協定」を締結しました。駒ヶ根市と協力して、市有林に薬用養命酒の生薬の原料となるクロモジとイカリソウを定植し、里山の森林整備を行う予定です。



調印式の様子

# いつも地域社会とともに

コミュニティの一員として常に皆様とともに歩み、地域社会のさらなる発展に貢献していきます。



## 各事業所での地域貢献活動

当社では、日頃の地域社会の支援に感謝し、地域コミュニティとの交流を深めるために、コミュニケーションをとりながら各事業所で様々な活動を続けています。

### ● 養命酒健康の森 イベント

駒ヶ根工場の「養命酒健康の森」では毎月季節にあわせたイベントを開催し、工場にいらっしゃるお客様や地域の皆様と交流を図っています。生薬や森の素材を使ったクラフト講座や、森を散策するウォークラリーなど、駒ヶ根工場ならではのイベントを企画しており、幅広い年代の皆様にご好評いただいています。ゴールデンウィークや夏休みにはお子様にも楽しくご参加いただける、フォトスタンドづくりやリースづくりといったキッズイベントも開催しています。

また、工場入口の「四季咲きの丘」には薬用養命酒の生薬原料の1つでもある芍薬しやくやくを約3,000株植栽しています。見頃を迎える5月下旬に「芍薬フェスタ」を開催し、延べ2,000人以上のお客様に一面に広がる芍薬の花をお楽しみいただきました。今後も地域の皆様に親しまれる工場を目指し、様々なイベントを実施していきます。



森の苔玉づくり



木の実と生薬のリースづくり



芍薬フェスタ

### ● 信州駒ヶ根ハーフマラソン大会への協賛

「信州駒ヶ根ハーフマラソン大会」へ協賛し、ランナーの皆様水分サポートとして当社商品「養命水」などを提供しました。また、マラソン前日には、ランナーの転倒防止のためコース整備ボランティアとして、コースのゴミ拾い等を社員や社員の家族で行っています。



### ● 花街道ウォーキング大会に「養命水」を提供

当社の商品開発センターの近隣で毎年開催される「花街道まつり」に協賛し、祭りの一環として実施されるウォーキング大会では、当社商品の「養命水」を提供しています。このウォーキング大会は、国土交通省が定める「日本風景街道」に登録されている「信州みのわ花街道」に対し、景観の保護・整備と地域活性化のため地域住民の有志でつくる推進協議会が毎年実施しているもので、当社は2012年以来、毎年協賛しています。

### ● 渋谷本店周辺の清掃活動

毎月1日、社員により本店周辺の清掃活動をおこなっています。



## 「くらすわ」を地域活性の場に

「くらすわ」では、より多くの方に愛され続ける信州に根ざした施設となるために、食を通じて地域の皆様の健やかな暮らしに貢献できるよう、様々な取り組みを行っています。

### ● 地元の生産者、企業の方々と共に

信州には皆様にもっと知っていただきたい隠れた逸品や、豊かで厳しい自然に育まれた食材など、素晴らしい素材がたくさんあります。「くらすわ」では、地元の老舗企業・生産者の方々とのコラボレーションを積極的に行い、信州発の魅力ある商品をお届けしています。

### ● 長野県にゆかりのあるアーティストを応援

地域の文化活動を支援し盛り上げる場として、定期的に長野県内外で活動する作家やアーティストの手作りの作品や絵画の展示会、音楽イベントなどを開催しています。館内のディスプレイにも地元アーティストの作品を使用しています。

#### Voice

#### 提携農園の声

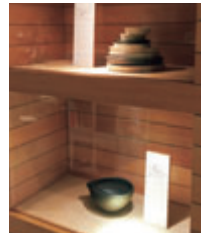


小松農園  
たくろう  
小松 巨孔郎 様

長野県富士見町の商工観光課の方から「品質の確かな良い野菜を探している人がいる」とお聞きしてお会いしたのが「くらすわ」の担当者との出会いでした。一年間畑に通っていただき、いろいろな野菜を収穫期ごとに見て、触れて、「うちはこういう味です」と実際に味を確かめてもらいました。私は、品質を求める者と、栽培に携わる者が「野菜」を中心にお互いの想いをぶつけ、そして納得したからこそ、いまのような良い関係が築けたと思っています。



長野県出身のYOKOさんによるジャズライブ



1F展示コーナー  
「くらすわ箏笛」にて  
地元作家の作品展示



長野県在住の水彩画家 若狭宣子さんの  
水彩画を2Fレストランに展示

### ● 地元の高校生に発表の場を提供

日頃の学習や練習の成果を多くの方に見ていただくために、地元高校生の部活動の発表会や展示会を「くらすわ」のイベントホールで実施しています。2015年度は、岡谷南高校吹奏楽部のミニコンサートや下諏訪向陽高校芸術科の作品発表イベント「KOYO おん・び・しょ@くらすわ」などを開催し、当日はたくさんのお客様にお越しいただきました。



吹奏楽部によるミニコンサート



芸術科書道選択の学生による「向陽かるた」

# 社員がいきいきと働ける職場づくり

従業員一人ひとりがやりがいを感じて働けるよう、職場環境の整備と社内風土づくりに努めています。



## 多様性を尊重した雇用制度

社員それぞれの様々な価値観を尊重し、性別・国籍・信条・障がいの有無などにとらわれず、従業員個々が持つ能力を十分に発揮できるよう、多様性を認め合う職場環境の整備に取り組んでいます。

現在、新卒入社者の3年以内離職率は0%となっております。今後も多様性を尊重した人事施策を進めていきます。

従業員数	(人)		
	2013年度	2014年度	2015年度
男性	187	186	183
女性	84	80	85
全体	271	266	268

新卒採用	(人)		
	2013年度	2014年度	2015年度
男性	0	4	1
女性	5	1	3
全体	5	5	4

## 障がい者雇用の推進

障がいの有無に関わりなく、相互に信頼し、助け合いながら効率的に仕事ができる職場を目指しています。従業員一人ひとりの特性に応じた職場へ配属し、能力を発揮しやすい職場環境づくりに努めています。

## 次世代を担う人材の育成

将来にわたって事業継続が可能な企業であるために、次世代を担う人材の育成に努めています。当社の研修の特徴は階層別研修です。部長・課長・若手等、役割や世代毎に研修を行い、会社において果たすべき役割理解や意識付けを行うとともに、階層ごとの横のつながりを強化しています。また海外研修も行っており、異なる文化や価値観を学ぶことは、商品開発やマーケティングのヒントとなっています。



アメリカでの海外研修

## 従業員の自己啓発支援

従業員の自発的な学習の支援のため、年間4万円を上限に資格試験受験やセミナー受講の費用を会社が負担する制度を設けており、多くの従業員が積極的に活用しています。

## 社員提案制度

企業風土改革の一環として全社員を対象とした社員提案制度を開始しました。新商品のアイデアや工場での作業改善案などが多数集まり、社員の挑戦意欲を高めています。(2015年度応募件数534件、提案採用率1.5%)

## Voice

### 社員の声

マーケティング部リテールグループ 兼  
商品開発センター

筒井 康貴



私が中小企業診断士の資格取得を考えたのは、経営に関する総合的な知識を身に付けることで、専門分野だけでなく大局的に物事を考えられるようになりたいと考えたからです。この資格の取得により得られたスキル・人的ネットワークを最大限活用し、これまで以上に良い商品づくりやサービスの提供につなげられればと考えています。

## ワークライフバランス

従業員がやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、様々なライフステージに応じた生き方が実現できるよう、会社として支援を行っています。有給休暇の取得はもちろんのこと、特に子どもを持つ従業員については、安心して働き続けられるよう、育児休業制度等を活用しながら職場と家庭の両立ができるように力を入れています。育児休業については、2015年度の取得者数は3名(男性1名・女性2名)で、女性の育児休業取得率は100%です。また、残業時間は月平均10.3時間となっており、ワークライフバランスを取りやすい環境が整っています。

■ 育児・介護休業取得件数 (件)			
	2013年度	2014年度	2015年度
育児	2	4	3
介護	0	0	0

### Voice

#### 社員の声

マーケティング部  
エイジングケアグループ  
通販担当



上久保 愛

1年間取得した育児休業は娘としっかり過ごすことができました。寝返りや立ったり歩いたり、喋ったりという「初めて」を近くで見ることができ、充実した日々となりました。復帰後は元の職場に戻り、保育園の行事や予防接種等でお休みも取りやすい環境です。女性が多く、同じように子育てしている方が多いこともあり、妊娠中から周囲の皆さんのサポートを頂き、仕事と育児を両立することができています。

## いきいきと働ける職場環境づくり

### 労働安全衛生の取り組み

労働災害を未然に防止するという考えのもと、従業員の安全意識の向上と管理強化のため、安全教育や制度整備に力を入れています。また、産業医と連携し健康診断結果をもとに個別カウンセリングも行いながら、従業員の健康増進を図っています。

### 従業員の健康管理

健康診断を会社で受診できるようにし、従業員の物理的負担を減らすことで受診率を高める努力をしています。また、インフルエンザワクチンの接種を会社負担で全従業員に対して実施するなど、感染症予防にも留意しています。

### 3A運動

3A運動(あいさつ、ありがとう、明るくきれいな職場)を推進し、礼儀正しく、お互いを尊重しあう組織風土づくりに取り組んでいます。

### ブランドメッセージに込めた理念を自ら実践

当社は、「次のすこやかさへ、一歩一歩」という新たなブランドメッセージを定め、目指す方向性を表明しました。ブランドメッセージに込めた理念をまず社員が実践するため、ウォーキング大会など健康増進につながる取り組みを実施しています。

#### TOPICS

### ブランドエッセンスムービー

社員一人ひとりの笑顔を健やかさの象徴として映像化したブランドエッセンスムービーを制作し、メッセージとして発信しています。

▶ [www.yomeishu.co.jp/company/operation/brand.html](http://www.yomeishu.co.jp/company/operation/brand.html)



# 皆様から信頼される企業であるために

ステークホルダーの皆様の期待に応えられる企業であるためにコーポレート・ガバナンスおよび内部統制のさらなる充実を図っています。



## コーポレート・ガバナンス

当社は、社会や市場の要請にお応えする能力をより一層高め、ステークホルダーの皆様のご期待に沿った経営を実践するため、特に3つの視点を重視した施策を展開しています。

- 資本市場や株主各位をより強く意識した経営の実践
- 経営の意思決定体制の強化と迅速性の向上
- 経営監督機能の強化

### ● コーポレート・ガバナンス体制

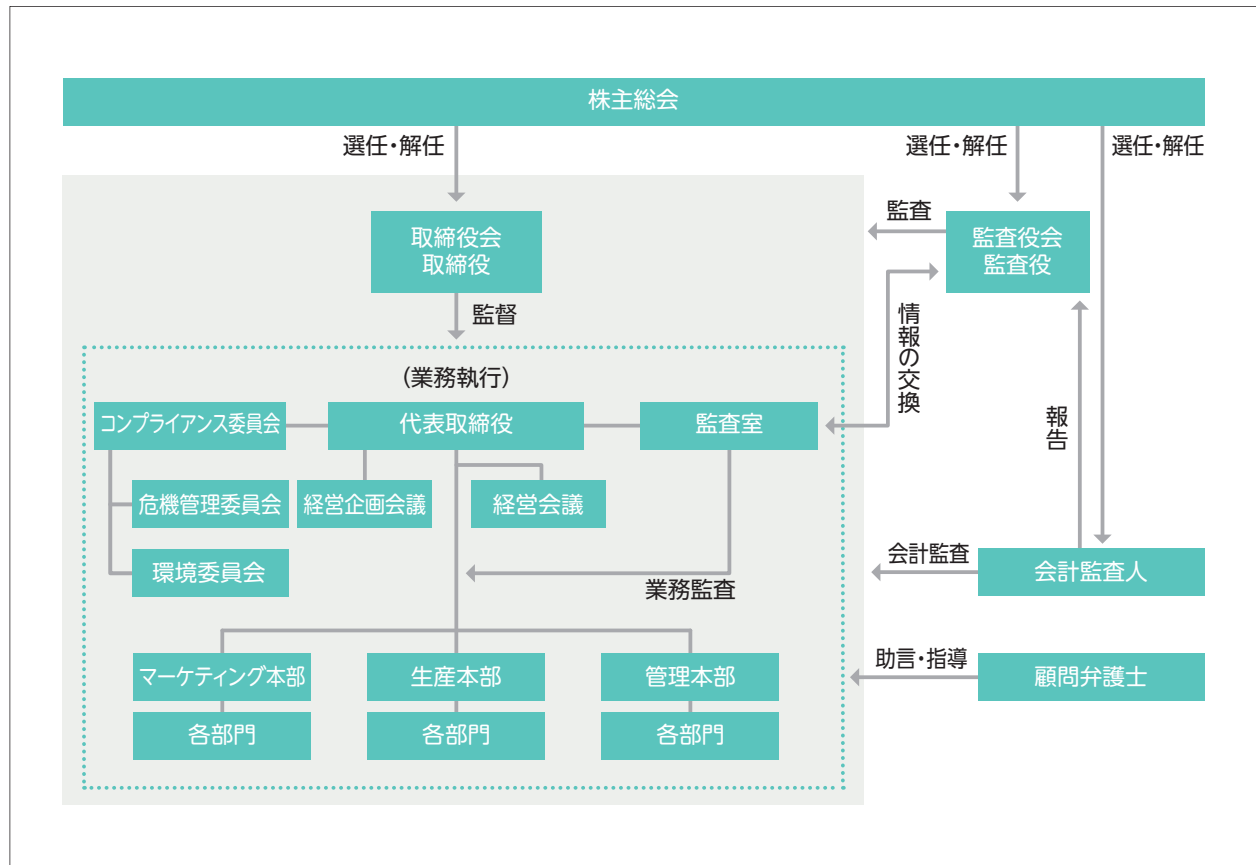
コーポレート・ガバナンス体制において、その有効性をより高度に発揮できるように、執行役員制の導入、取締役の人員の適正化、経営会議体などの充実を図っており、これらの施策が有効に機能していると判断しています。

当社は、監査役設置会社であり、監査役4名のうち3名が社外監査役の体制をとっています。また、取締役11名のうち1名が社外取締役であり、これらの社外役員は、独

立的な立場から経験・見識等を活かした経営の監督または効率的な監査を行うとともに経営全般についての助言や意見交換を行っています。

また、コンプライアンス体制についても、コーポレート・ガバナンスの根幹であるとの認識に基づき、法令を遵守することはもとより、社会規範を尊重し、企業の社会的責任を意識した企業倫理を確立してまいります。

### ■ 内部統制システムを含むコーポレート・ガバナンス体制





## 内部統制

当社は、会社法に基づき「内部統制システム構築の基本方針」を取締役会にて決議し、整備に努めております。当社の内部統制システムに関する基本的な考え方と体制の整備状況については、「コーポレート・ガバナンス報告書」で開示しています。

### 内部統制システムに関する基本的な考え方及びその整備状況(一部抜粋)

#### 1. 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- (1) 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するため行動規範を定め、個々の役職員が遵守するよう推進を図るとともに、「コンプライアンス委員会」を設置し、コンプライアンス意識の普及及び啓発を行う。
- (2) 使用人の職務の執行は、各関係部門が法令及び定款に適合することについて確認するほか、必要に応じて法律チェックの担当部署又は顧問弁護士に指導を受けるよう推進する。
- (3) 代表取締役社長の直轄の内部監査部門が職務執行に関わる関係法令、経営方針、社内規定その他規範の遵守が行われているか内部監査を行う。
- (4) 「内部通報制度運用規定」を整備し、取締役及び使用人は、不正、違法、反倫理的行為が発生した場合又はその恐れがあると判断した場合は内部通報することとし、その事実が確認された場合、代表取締役社長に報告しなければならない。
- (5) 反社会的勢力とは一切関係を持たない旨を行動規範に定め、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力及び団体に対しては警察や顧問弁護士等と連携し、毅然として対応する。

#### 2. 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役及び執行役員の職務の執行に係る取締役会、経営会議、経営企画会議等の議事録、稟議書その他の重要な情報は、社内規定に従い適切に保存管理するものとする。また、これらの文書は監査役の要求があった場合、速やかに提出しなければならない。

#### 3. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- (1) 業務活動全体におけるリスク管理に関しては、各関係部門で規定及びガイドラインの制定並びに研修の実施を行うとともに、代表取締役社長の直轄の「コンプライアンス委員会」及びその諮問機関である「危機管理委員会」が社内規定に基づいてリスクの把握・リスク対策の検証を行う。
- (2) 代表取締役社長の直轄の内部監査部門が監査計画に基づきリスク対策の有効性の評価を行う。
- (3) リスクが発生し、重大な損害が予想される場合には、「コンプライアンス委員会」が対応するとともに、代表取締役、監査役、取締役会及び経営企画会議に報告しなければならない。

# 皆様から信頼される企業であるために



## コンプライアンス

当社では、法令を遵守することはもとより、社会規範を尊重し、企業の社会的責任を意識した企業倫理を確立すべく行動規範を定め、個々の役職員が遵守するよう推進しています。また、コンプライアンス経営の強化を図り、「コンプライアンス委員会」の設置や「内部通報制度運用規定」の制定などにより、企業の社会的責任に基づいた企業倫理の確立に向けて、総合的なコンプライアンス体制の確立を進めています。

### ● コンプライアンス体制

当社は、「養命酒製造 行動規範」の実践を始めとし、企業倫理を高め、法令を遵守し、公正で誠実な経営を実践すること、及びコンプライアンス意識の普及啓発を行うことを目的として「コンプライアンス委員会」を設置しています。コンプライアンス意識の普及啓発のため、各種研修の実施や毎月のコンプライアンス関連情報の提供を行うとともに、各部門のコンプライアンスリーダーを通じて各職場に合ったコンプライアンス意識の普及啓発を行っています。

### ● 内部通報制度の整備と運用

コンプライアンス経営の一環として内部通報制度を導入し、従業員はもとより、契約社員、パートナー社員、派遣社員は、不正、違法、反倫理的行為が発生した場合やその恐れがあると判断した場合は、専用窓口に通報することを「内部通報制度運用規定」に定めています。

また従業員等がこの制度を積極的に活用できる社内風土の醸成に努めるとともに、窓口以外には通報者の情報を秘匿するなど通報者の保護を規定し、通報者が通報した行為によって、懲戒処分や不利益な配置転換などいかなる不利益も被らないことを徹底しています。

### ● 反社会的勢力に対する基本的な考え方

反社会的勢力に対しては毅然として対応することとしており、「養命酒製造 行動規範」において「私たちは、政治、行政との健全かつ透明な関係を保つとともに、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは毅然として対応し、一切関係を持ちません。」と反社会的勢力の拒絶を明確に記載しています。反社会的勢力への対応は担当部門が統括し、外部専門機関との連携を密にし、反社会的勢力についての情報の収集や対応についての助言を得るなど不測の事態に備えています。また、対応マニュアルを整備し、周知を図るとともに研修を実施しています。

### ● 国際ルールや各国の法令の遵守

国際社会の一員として、国際的なルールや当社の事業に関わる諸外国の法律を遵守するとともに、現地の文化や習慣等も尊重し、それぞれの国の発展に貢献する経営を行っています。



## ステークホルダーの皆様への適正な情報開示

当社は、株主・投資家の皆様をはじめとする全てのステークホルダーの皆様に対する責務として、経営情報、事業活動等に関する情報を公平、積極的かつ適時・適切に開示するよう努めています。また、当社の情報開示についての基本姿勢は、「養命酒製造 行動規範」の中に「株主をはじめとするステークホルダーや社会とのコミュニケーションを広く行うとともに



に、積極的に公正、透明な企業情報の開示を行う」よう定めており、代表取締役社長が役職員への周知を図っています。情報の開示に際しては、情報収集段階での迅速性、網羅性に留意し、情報の分析・判断にあたっては適時性、適法性、正確性、公式性を旨とし、公表段階においては公平かつ積極的に開示を行うよう努めています。

## リスクマネジメント

当社は、コンプライアンス上のリスク把握や事業継続上の危機管理、お客様情報等機密情報の漏えいリスクなど、社会・環境・経済面で想定される多種多様なリスクに対応する体制づくりを進めています。リスクマネジメントの体制強化のために「コンプライアンス委員会」の諮問機関として「危機管理委員会」を設置し、予想される様々なリスクの管理、責任体制及びディスクロージャーを含む迅速な対応の確立に努めています。

実際にリスクが発生し、重大な損害が予想される場合には、「コンプライアンス委員会」が対応するとともに、代表取締役、監査役、取締役会及び経営企画会議に報告することとしています。また、事業活動全体におけるリスク管理は、各関係部門で規定やガイドラインを制定し、これらを社内に周知するための研修を行うとともに「危機管理委員会」が社内規定に基づいてリスクの把握とリスク対策の検証を行っています。

### 個人情報保護の取り組み

当社では、通信販売をご利用のお客様、各種キャンペーンやイベント等にご応募いただいたお客様など、多くの方の個人情報を保有しています。これらの大切なお客様の情報を守るため、個人情報保護法及び各種のガイドライン等に基づき、個人情報保護に取り組んでいます。

「養命酒製造 行動規範」には、「私たちは、有形・無形の会社財産や秘密情報の適切な管理と保全に努めるとともに、個人情報や顧客情報の厳重な管理と保護を徹底します。」と明記しています。また、個人情報の保護・管理及び利用について定めた「プライバシーポリシー」を当社のホームページで開示しています。

### BCP(事業継続計画)の策定と運用

大地震や巨大台風等の自然災害および感染症の大規模な流行時でも、事業の継続や早期復旧ができるよう、必要な対策や手順についてまとめた事業継続計画を2011年度に策定しました。さらに、常に事業継続に対する意識の高い企業体質・企業文化の醸成を図っています。

## 公正な取引

当社は、調達にかかわる法規制やルールを遵守することはもちろん、お取引先との公正で透明な取引を徹底するため、「養命酒製造 行動規範」において「私たちは、公正、透明、自由な企業間競争ならびに適正な取引を行い、不当あるいは不正な手段による利益追求は行いません。」と定めています。

# 商品紹介&会社の歩み

薬用養命酒は、1602年に創始者塩澤宗閑翁の健康への願いから創製され、今日までの400年以上にわたり皆様の健康生活に貢献しようとする精神を連綿と受け継いでまいりました。

## 薬用養命酒 第2類医薬品

薬用養命酒は生薬の有効成分による穏やかな作用で、体調を整えて、健康へと導く薬酒です。



## ハーブの恵み

ナツメ、シナモン、クコの実など、13種類の東洋ハーブをバランスよく配合し、おいさと香りにこだわって造りました。



## 琥珀生姜酒

“生・蒸・乾燥”3つの生姜と12種類のハーブをブレンドした、ピリッと辛い大人の生姜酒です。



## フルーツとハーブのお酒

フルーツのおいしさと5種類のハーブがひとつになった、女性にうれしい美容のお酒です。



## 養命酒製造株式会社の歩み

1602 「養命酒」、信州伊那の谷・大草（現在の長野県上伊那郡中川村大草）の塩澤家当主、塩澤宗閑翁によって創製



人々に「養命酒」を分け与える塩澤宗閑翁

1925 東京・渋谷に天龍館東京支店を開設、「養命酒」の全国販売に踏み出す

株式会社天龍館名古屋支店



1953 京都府宇治市に関西支店（のち京都市をへて1971年に大阪市に移転、大阪支店と改称）を開設

1961 埼玉県鶴ヶ島市に埼玉工場を新設（2006年に閉鎖）



埼玉工場

1972 長野県駒ヶ根市に駒ヶ根工場を新設（同年岡谷工場を閉鎖）



駒ヶ根工場 建設中の風景

1982 「家醸本みりん」を発売

1602年 1923年 1925年 1951年 1953年 1955年 1961年 1964年 1972年 1975年 1982年

1923 長野県上伊那郡に株式会社天龍館設立 塩澤家より「養命酒」の事業を継承



旧第一工場（「養命酒」発祥の地）

1951 長野県岡谷市に岡谷工場を新設、商号を養命酒製造株式会社に改称



牛に乗って販促活動

1955 東京証券取引所に上場



宣伝カーによる拡販活動

1964 長野県岡谷市に技術研究所を開設



旧日本店屋

1975 長野県上伊那郡箕輪町に中央研究所を新設（同年技術研究所を閉鎖）

## HER HERBS

ハーブと果汁が甘く爽やかに香る、かるやかで風味豊かなハーブワインです。お料理にもよく合うように仕上げました。

## 家醸本みりん

信州産もち米を使用し、2か月かけて仕込み、熟成させました。上品な甘さと豊かな旨みで、出汁や素材を引き立てます。

## 養命水

養命酒にも使われている中央アルプスの水。極軟水だからのごしなめらかで、お茶を入れる時やお料理用の水にもおすすめです。

## 食べる前のうるる酢Beauty

お酢をベースに、食物繊維と美容成分を配合した美サポートドリンクです。

## ハーブプラス Herb+ 指定医薬部外品

漢方処方をもとに独自設計した、体にやさしい栄養ドリンクです。ノンカフェインなので、風邪の時やお休み前にも服用できます。

## 幸健生彩 指定医薬部外品

6種の生薬エキスを配合した胃腸障害時の栄養補給、虚弱体質、滋養強壮に効果を発揮する指定医薬部外品です。

## カンカ

3種類の人参パワーでいっそうの元気と健康を目指す方の健康補助食品です。



1989  
本店新社屋が竣工



本店新社屋

2002  
養命酒創始400年記念式典開催  
養命酒創始400年記念館竣工



養命酒創始400年記念館

2006  
インターネット通信販売サイト「養命酒本舗」開設(2012年に「Yomeishuオンラインショップ」にリニューアル)「幸健生彩」「養命水」「カンカ」を発売



Yomeishu  
オンラインショップ

2011  
「ハーブプラス Herb+」を発売

2014  
「鶴ヶ島太陽光発電所」に見学施設「eコラボ(エコラボ)つるがしま」を開設



「e コラボつるがしま」  
(埼玉県鶴ヶ島市)  
Photo Takumi Ota

1989年

1994年

2002年

2005年

2006年

2010年

2011年

2013年

2014年

2015年

2016年

1994  
中央研究所新棟が竣工(2014年に商品開発センターに改称)



中央研究所新棟

2005  
大正製薬株式会社との業務・資本提携を発表  
駒ヶ根工場に「養命酒健康の森」開設

2010  
「ハーブの恵み」を発売  
長野県諏訪市に商業施設「くらすわ」を開業



くらすわ(長野県諏訪市)

2013  
「食べる前のうるる酢」「フルーツとハーブのお酒」を発売  
埼玉県鶴ヶ島市に「鶴ヶ島太陽光発電所」を開設

「鶴ヶ島太陽光発電所」  
(埼玉県鶴ヶ島市)



2015  
「HER HERBS」を発売

2016  
「琥珀生姜酒」を発売



## 養命酒製造株式会社

〒150-8563

東京都渋谷区南平台町16-25

<http://www.yomeishu.co.jp>

TEL:03-3462-8111(代表) FAX:03-3462-8340